



む け げ 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

除夜の鐘から年越しの鐘へ

今まで、除夜の鐘を23時30分位から行ってきましたが、今年から14時から16時の間で「年越しの鐘」と言うことで行う事としました。ただ数年は、除夜の鐘も並行して続けますが、数年後には「年越しの鐘」にまとめたいと思っております。

この変更に来った理由にはいくつかありますが、一つ目には昼間ならば小さなお子様でも参加しやすいと言うことです。夜中に行われる「除夜の鐘」ですと、ある程度の年齢の方以外は、参加しにくいと思いますので、出来るだけ沢山の方に参加して欲しいという思いもあり、昼間に変更しようと思いました。次に、夜だともう飲んでしまっていて車では出られない、と言う声を聞いたこともあります。当寺の場合、寺の近くにはご門徒が少なく、車でないと来られないところに、多くのご門徒さんがいらっしゃいます。酒を飲まなくとも、深夜に往復小一時間かけてと言うのは、事故の危険性も高まります。それに加えて、ここ数年の感染症の問題もあります。年の瀬の深夜と言うこともあり、毎年かなりの寒さの中で「除夜の鐘」を行って参りました。お寺の行事で、風邪などの病気を引き起こしても良くないという気持ちもあります。そのような問題を考えあわせまして、夜でなく昼に変更してはどうだろうか、ということになりました。

除夜の鐘を108打つことで、自分の持っている煩惱を消す、という話を聞いたことがあると思います。でも、自分の持っている煩惱って、鐘を打つくらいで消えるものでしょうか？お釈迦様は、煩惱の根本には、貪欲(とんよく)・瞋恚(しんに)・愚痴(ぐち)があるといいます。これを三毒の煩惱と言いますが、まず貪欲とは、貪りの心のことであり、ここまでで良いという際限がなく、どんどん欲求が大きくなる心です。次に瞋恚とは、怒りや恨み、そして自分と違うことを嫌う心のことであり、心で思うだけのことも含まれます。最後に愚痴とは、真理を知

ることなく、正しい判断を下すことができずに、思い悩む心を指します。この三毒の煩惱と言われる根本の煩惱さえ、正直打ち消すことは難しいことでしょう。そう考えれば、梵鐘を打つことで煩惱を消すことは無理なのではないかと思うのですが、皆さんはどう考えますか。

ですから、梵鐘を打つことで煩惱を消すとか考えずに、梵鐘を打つことで年の瀬を思い、過ごしてきたこの一年を振り返り、来る年に思いをはせる、というくらいに考え、鐘の音を心静かに聴くという位の気持ちでいいのではないのでしょうか。一年を振り返ると、皆様も沢山の出来事があったと思います。そして来年に向けていろいろと考えてもいることでしょう。そのような思いとともに、心静かに鐘を打ち、その音を聞いてみるのも良いのではないのでしょうか。



(第2回) ※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

苦行林からスジャータの乳粥供養

苦行林

シッダールタは、深夜に城を出るのですが、馭者のチャンダカが手綱を引く愛馬カ
ンタカに乗り城を出たと言われ、その時に「もし無上菩提を得て仏陀にならないうちは
二度とここに戻らない」と心に誓ったと言われています。その後、シッダールタは東を
目指して進み、夜明けには昔仙人が住んでいたというマイネーヤに着きました。そこ
でシッダールタは馬から下り、身につけていたものを外して父であるシュッドーナ
王や、養母のマハープラージャーパティや妻のヤショーダラー姫に渡すようチャンダ
カに頼んだと伝えられます。そして、自ら剣を手に取り、髪を切り修行僧の姿になり
、さらに東に進みクシナガラを経てヴェーサーリに到ります。ここヴェーサーリは、
修行僧が集まっていた場所でもあり、その中で高名な仙人のアーラーダ・カーラーマにつ
いて修行したいと考えていたからだとも言われて
おります。ここでアーラーダを師として瞑想修
行をしましたが、まもなく師と同じ境地に到達
し、さらに修行の旅に出ます。次に師と仰い
だのは、ラージャガハのルドラカ・ラーマプトラ
と言う仙人で、ここでも瞑想修行を続けます
が、まもなく師と同じ境地に達したシッダ
ールタは、さらに「悟り」を目指します。この二人は、
シッダールタにとっては最良の「師」であつたと
思われ、後にシッダールタが到達する仏教の考
え方に非常に似通つたものであつたと言われます。



苦行林時代のお釈迦様

しかし、これ以上の境地に達するには、自分自身の修行
の中で道を探すほかはなく、ラージャガハから西南のガヤー
に向かい、ここにほど近いウルヴェーラーで苦行を続けることとなります。この時シッダールタには、5人の仲間がいたと伝えられており、その5人は、ルドラカの弟子ともシュッドーナ王がシッダールタの警護に就かせたものとも言われております。そしてその時の苦行は、呼吸を制限する修行や太陽の直射日光を浴び続ける修行、断食といった、過酷なものでした。そうしていく中で、シッダールタの身体は痩せこけ、皮膚の色もあせていきました。

スジャータの乳粥供養

しかし肉体に苦痛を与えるとともに、精神も鍛える苦行を6年間もの長い間続けたシッダールタは、悟りを得るところか徐々に心身が衰えていきました。そして、これでは身体が衰弱するばかりで、悟りにたどり着けるものではないと、ついに苦行を捨てることを決意して、近くの川(尼蓮禅河)で身を清めます。そして、通りかかった村娘のスジャーターから乳粥を供養され体力・気力を回復しました。その乳粥は、千頭の若牛の乳を搾り、七度煮詰めて、その中の滋養分だけを取り、新しい米を新しい鍋に入れて、その精製した牛乳で煮て粥を作つたと伝えられています



スジャータの乳粥供養の図

そのときのスジャーターの「琴の弦はきつく締めすぎると切れてしまうが、緩く締めると音が悪い。琴の弦は、適度に締めるのが望ましい」と言う言葉を聴いたシッダールタは、過度の快樂が不適切であると同様に、極端な苦行も不適切で間違いであつたと気付きました。しかし、乳粥を口にするシッダールタを見た5人は、彼を墮落者と誹りサルナートへ去って行きました。

(次号へ続く)

お
釈
迦
様
の
ご
生
涯

参れ～寺カード10ポイント達成報告



50ポイント達成！
井坂 ヨシエ様



30ポイント達成！
小菌 俊秀様

怪談話の会ご報告

7月28日に二つ目の柳家かえるさんを迎えて怪談話の会を開きました。狭い本堂です。人数制限をしながらも沢山の方にお越し頂きました。まだまだ日本には、落語を生で聴いた事のない子ども達が沢山いるので、そのような全国の子ども達に、一人でも多く落語を聴いて笑ってほしい、との思いで始めた企画のようです。

そして、金額を決めない投げ銭と言う方法なら、子どもでも自分の小遣いで気軽に観に来ることができ、子どものうちからエンタメにお金を払うという経験もできる、と言う思いもあったようです。

お金を出して買い物をすると同じように、映画やお芝居など「芸術文化」に対価を払う、ということに子どものうちから馴染んでもらい、親子で来ることにより保護者の方にも、生で落語を体験していただく良い機会になると考えたそうです。

おかげさまで夏休みに楽しい思い出を残すことが出来たのではないのでしょうか。

なお、柳家かえるさんは、来年9月21日より真打ち昇進予定で、柳家平和となります。



グラウンドゴルフのお誘い

12月11日(日)朝9時に

正念寺に集合していただき、その後大方運動場において、第4回正念寺杯を開催します。現状では、新型コロナウイルスの罹患者が、高止まりの状況ではありますが、外で行う行事でもありますので、お互いに感染に気をつけながら実施したいと思っております。寒い時期になりますので、感染防止のマスクはもちろんですが、風邪など引かないように暖かい服装やホッカイロなど、風邪対策もお願いいたします。今後、罹患者の動向や国の指針の変更等により、中止のやむなきに到る場合もありますが、その場合は、ご容赦くださいますようお願いいたします。

感謝録

今年もお仏供米として、沢山の
新米をご奉納頂きました。謹
んでご報告させていただきます。(10月31日現在)

常陸太田市

井坂 孝一様	井坂 照雄様
井坂 敏行様	井坂 友之様
井坂 豊子様	井坂 浩 様
小菌 篤 様	小菌 達雄様
小菌 浩文様	小菌 光晴様
勝山 芳和様	仲村 義信様
平山 晶邦様	武藤 美德様
那 珂 市	
浅川 泉 様	小田倉 敬様
檉村 一洋様	小澤 喜一様
住友 政美様	箕川 政一様

* 記載が漏れた方がありましたら、ご連絡ください。

ホームページのご案内

正念寺ホームページには、今までの寺報
やちょっとした仏教の話、寺の縁起なども
あります。常陸太田市 正念寺で検索をかけ
ていただくと到着します。

スマートフォンなどからは、下記QRコー
ドを読み込んで下さい。

なお、ホームページか
らYouTubeの正念寺チャン
ネルへも行けますので、
是非お楽しみ下さい。



これからの行事予定

清掃奉仕 10月25日

會澤 順一様
井坂 久美子様
井坂 ヨシエ様
坂内 愛子様
佐藤 のり子様
永山 正文様

お磨き奉仕 11月8日

井坂 照雄様
井坂 ヨシエ様
小坪 一恵様
橋本 貢 様
安 二郎様

11月29日(火) 9時～	清掃奉仕
12月11日(日) 9時～	グラウンドゴルフ
12月31日(土)14時～	年越しの鐘
1月 1日(日) 8時～	元旦会
1月 7日(土)10時～	総代・世話人 初顔合わせ
1月 8日(日)10時～	聞法会初顔合わせ
1月24日(火) 9時～	清掃奉仕
2月28日(火) 9時～	清掃奉仕
2月28日(火)13時半～	仏具磨き
3月 8日(水)13時半～	永代経法要
3月21日(火)11時～	久遠廟法要
4月 9日(日)14時～	花祭りコンサート

本堂清掃奉仕 11月9日

石川 明美様 石川 桃代様
小坪 光久様 坂内 愛子様
永山 正文様



住職雑感

まだまだ新型コロナ感染症は治まっていますが、少しずつ日常に戻る準備
段階に入ったような気がします。もちろん、まだ完全に安心できる状態とは言
いがたいと思いますが、それでも旅行なども徐々に行われるようになり、また色々な会合も行わ
れるようになりました。

とは言え、通りを歩いていると、外ではマスクは不要という厚生労働省の指針があるにもか
かわらず、ほとんどのの方がマスクをしています。まだマスクを外すことに、不安を感じるの
かもしれません。2年ほど前に「飛行機内のマスク着用拒否事件」が起きましたが、あの時期
に閉鎖された空間でマスクを付けないという選択は、さすがに怖いなどと思います。しか
し、今もなお外を歩く時にもマスクを外せないというのは、もしかしたらこれが「同調圧
力」というものか、とも考えたりします。

私たちは、色々な人々の中で生きています。ですから、人の気持ちに寄り添うとか、人
を思いやるという気持ちを失っては、世の中がギスギスするばかりだと考えます。全
てを一律に考えるのではなく、一つの考えに囚われるのではなく、柔軟に考える事
も大事なのではないのでしょうか。